

卒業論文要旨

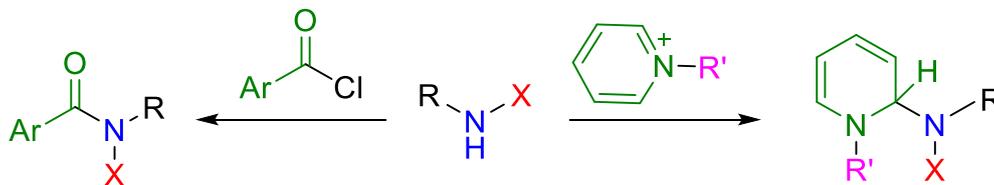
求核性と求電子性を併せ持つ N-ハロアミンを用いた N1 ユニットの導入

1260272 山本茉秀

Introduction of an N1 Unit Using N-Haloamine with nucleophilicity and electrophilicity

Maho Yamamoto

アミンと N-ハロスクシンイミド(NXS)から容易に発生させることができる N-ハロアミンは本来有している窒素原子の求核性に加えて、ハロ基によって高められた求電子性を併せ持つ。また、ハロ基は脱離性が高いことから、様々な試薬と反応し、N1 ユニット導入試剤として幅広い利用が期待される。私はこれらの構造的特徴に着目し、求電子試薬と反応させた後、続く分子内での化学変換反応について検討を行なった。



まず、酸クロリドを求電子剤に用いたところ、対応する酸アミドを調製することに成功したものの、続く転位反応を利用した 2 級アミンへの変換反応が進行する条件を見出すには至らなかった。そこで、求電子剤をピリジニウムイオンに替えたところ、付加体が生成していることを確認した。さらに、この付加体を用いた化学変換も検討を行なった。